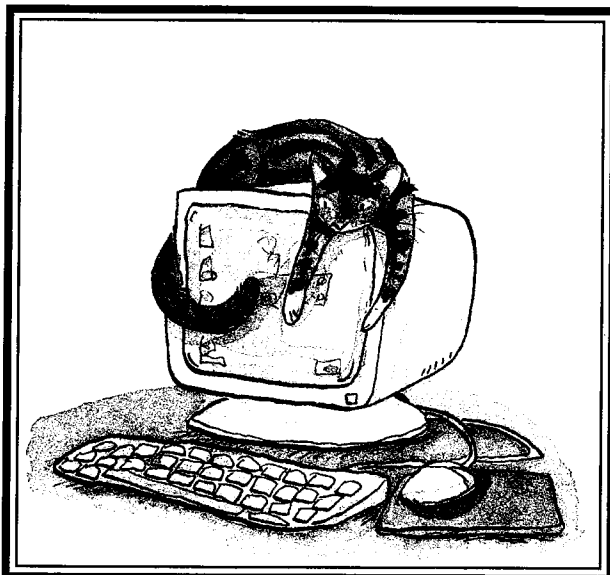


西山ゆう子獣医師レポート・パート2「虐待について」



前号は繁殖と不妊手術についてレポートさせていただきましたが、今回は虐待についてお話しします。近年、物言わぬ動物たちを標的とした虐待が相次いでおり、中には私たちの想像を超えた惨い虐待も横行しています。ARKにも虐待についての相談が多く寄せられますが、その大多数が冷静さを欠いた一時的な感情のものがほとんどです。もちろん、緊急を要する場合は直ちにレスキューに向かいますが、お電話では相談者の感情が入り交じるので状況が判断しにくく、遠方ならばなおさらに確認に向かうわけにもいきません。個人の虐待に対する定義が違うために客観的に判断できる材料『写真・ビデオ等』を揃えていただく必要があ

り、虐待罪で警察に届ける場合も同様、状況証拠だけでは動くに動けないので証拠を求められます。証拠を押さえる際はいつも同じ時間帯だけでなく出来れば早朝、朝・昼・晩、深夜と様々な時間帯での監視をしなければいけません。

先日も水も餌もなく空き家と思わしき家に一週間も犬が2匹放置されているという連絡を

受けてスタッフが現場に急行すると、飼い主はちゃんと在宅しており、引っ越し作業中だったというケースもありました。通報をする前に、まずは発見者自らが一時の感情に押し流されず、冷静になって近所にも聞き込みをする等の最低限の努力はしてほしいと思います。送られてきた情報を元に、もちろん私たちも冷静に判断を下さなくてはなりません。

去年末のセミナーで、西山先生は虐待についての判断は『ガイドライン』に沿って判断すべき、とおっしゃっていました。瘦せ具合はどうか、衰弱状態はどうか等のチェック項目が多数あり、段階によって判断できるシステムで、一般的に言われる『酷

い飼い主』の虐待だけに留まらず、可愛いが故に過度に甘やかし、自分で立てないほど太らせてしまうような場合等も立派な虐待にあたると思います。今後、こういったシステムをもっと見習い、すばらしいからと言って海外のやり方をただ真似るだけでなく、日本特有の飼い方や気候風土等の要素も含ませながら色々なケースを照らし合わせてのガイドライン作りはぜひとも手がけて行きたいと思いました。

「かわいそう」という感情ばかりが先走っていると、冷静さを失い動物たちをもっと窮地に追い込むことも少なくはありません。虐待については発見者とレスキューする側の『冷静かつ客観的な判断』が必要です。もちろん、虐待と判断するに至らなくとも飼い主の無知さ故に酷い扱いを受けている動物たちも沢山居ますが、そういう場合には飼育指導を行ったり行政に介入してもらえるよう掛け合ったりという努力はもちろん怠らないよう心がけていきます。

そして、何より忘れてはならないのが虐待者や無知さ故に無意識に虐待をしてしまう飼い主たちへは、二度と愚かな行為を繰り返させないように、勇気を出してとことん責任追及すべきだと思います。

本のご紹介 Book reviews

ドッグオーナーズマニュアル



「どんな犬でも良い犬になれる」トレーニング法を写真入りで解説しており、犬の性格や本能を最大限に活かし良い飼い主になる方法や、問題行動を起こす犬の心理的な部分の理解を求め、それに沿った改善方法を判りやすくアドバイスしてあります。

著：グエン・ベイリー
訳：長屋アニー
価格：¥1,800（税別）
出版：誠文堂新光社

犬の飼い方



ヒューマン・アニマル・ボンド「人と動物の絆」は人間と動物双方の心身によい影響を与えることが証明されています。大人から子供まで判りやすく、実行すればその通りになる「ほめてしつける」訓練をぜひみなさんも楽しんでください。

著：テリー・ライアン
共著・訳：加藤元
価格：¥1,200（税別）
出版：池田書店